国際石油開発帝石株式会社
INPEX CORPORATION

平成 22 年 5 月 20 日
国際石油開発帝石株式会社
広報・IR ユニット
（電話 03-5572-0233）

# オーストラリアにおける探鉱開発部門の最優秀環境賞受賞について

イクシスプロジェクトを推進している当社子会社インペックス西豪州ブラウズ石油株式会社は、今月 16 日から 19 日オーストラリア連邦ブリスベン市で開催されたオーストラリア石油探鉱開発協会（Australian Petroleum Production & Exploration Association (APPEA)）の 2010 年年次総会において、同協会から 2009 年度の探鉱開発部門最優秀環境賞（Environmental Awards category B：Exploration Companies）を受賞しましたので、お知らせします。

受賞題目は「Ichthys Project-Onshore Geotechnical Investigation, Blaydin Point, NT」（オーストラリア北部準州ブレイディンポイントにおけるイクシスプロジェクトに関する陸上の地盤調査）です。これは、イクシスプロジェクトのガス液化施設建設予定地である同州ダーウィン郊外のブレイディンポイントにおける地盤調査のことで、同社がマングローブへの影響に配慮し環境負荷の少ない Marsh Buggy（湿地用の水陸両用車）を使用して調査作業を行ったことが評価されたものです。

調査ではマングローブの生えている海岸の湿地帯で多くのボーリング実施が予定されましたが、湿地であるためアクセスが悪いことや環境への影響が懸念されました。つまり、マングローブの伐根をなくし、土壌の酸性化を防ぐことが重要な課題であったため、特別仕様の円盤状カッターを装着した湿地用の伐採機を用いてマングローブを地表面近くで切断し、根を残す方法を採用しました。

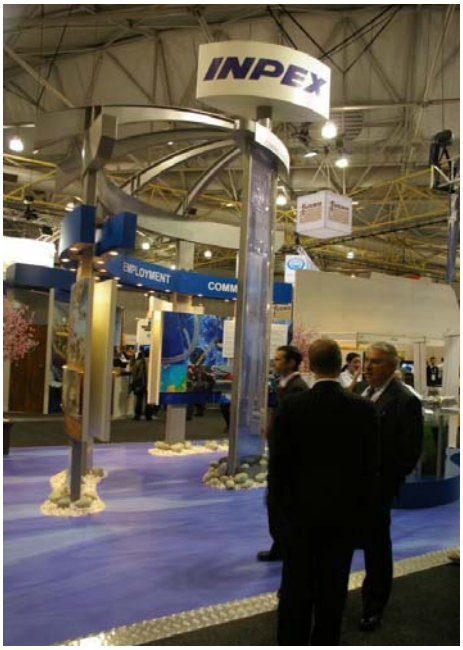
ボーリング装置は、地面に与える圧力を分散させるため設置面積の大きな Marsh Buggy に載せ、ボーリング作業を予定通り完了しました。この Marsh Buggy によって、軟弱地盤上での作業の安全性が保持され、酸性土壌流出のリスクを大幅に低減し、マングローブの再生を促進することが可能となりました。

なお、イクシスプロジェクトは現在 FEED（基本設計作業）を順調に実施しているところですが、上記の調査によって得られた地盤データが、最適なプラント設備を設計するために用いられます。

（補足説明）
イクシスプロジェクトについて
イクシスプロジェクトは、インペックス西豪州ブラウズ石油㈱が 76%の権益を保有するオペレーターとして、24%の権益を保有するパートナーの TOTAL と共同で、西オーストラリア沖合でイクシスガス・コンデンセート田の開発準備作業を実施中です。イクシスプロジェクトでは、年間 840 万トンの LNG、また日産 10 万バレル（ピーク時）のコンデンセート及び年間約 160 万トンの LPG の生産を計画しています。生産されたガスは約 885km の海底パイプラインによりダーウィンの液化施設（LNG プラント）に輸送されます。

以上

国際石油開発帝石株式会社
INPEX CORPORATION




APPEA2010　当社ブース

APPEA Environmental Awards 受賞風景
インペックス西豪州ブラウズ石油株式会社 シニア・プロジェクト ディレクター　エリック・コーニング（左）、ファーガソン連邦観光資源大臣（右）

Marsh Buggy（湿地用の水陸両用車）に搭載したボーリング調査のための掘削装置

Marsh Buggy（湿地用の水陸両用車）での作業風景